

水産海洋地域研究集会

第9回 駿河湾・伊豆海嶺地域研究集会
—駿河湾自然環境と環駿河湾地域の研究—

日時：2017年3月10日（金） 13:00-17:30
場所：東海大学海洋学部8号館8205教室
共催：一般社団法人水産海洋学会，東海大学海洋学部
コンビーナー：植原 量行（東海大海洋）

挨拶：和田 時夫（一般社団法人水産海洋学会長） 13:00-13:05
挨拶：千賀 康弘（東海大学海洋学部長） 13:05-13:10
趣旨説明：植原 量行（東海大海洋） 13:10-13:15

駿河湾の自然環境(物理環境) 座長 田中 昭彦（東海大海洋）

- 13:15-13:30 海洋大循環モデルの中の駿河湾とその熱収支
○植原 量行（東海大海洋）・内山 和紀（東海大海洋）・笹井義一（JAMSTEC）
- 13:30-13:45 高解像度データによる駿河湾海況の把握 ○瀬藤 聡（水産機構中央水研）
- 13:45-14:00 遠州灘沿岸域における直接測流観測
○日下 彰・瀬藤聡・山崎恵市・清水勇吾（水産機構中央水研）
- 14:00-14:15 駿河湾における直接測流観測
○勝間田 高明・仁木将人・田中昭彦・萩原直樹（東海大海洋）
- 14:15-14:30 定置観測ブイからみた駿河湾の海況変動 ○海野 幸雄（静岡水技研）
- 14:30-14:45 駿河湾および周辺海域における海面フラックス ○轡田 邦夫（東海大海洋）
- 14:45-15:00 休憩-----

駿河湾の自然環境(光・栄養塩・低次生産) 座長 勝間田 高明（東海大海洋）

- 15:00-15:15 沿岸用多波長イメージ海色センサ
○丹 佑之（国際海洋開発・東海大海洋）・杉山 領（東海大海洋）・田中昭彦（東海大海洋）
- 15:15-15:30 沿岸域における海色の時空間的变化
○杉山 領（東海大海洋）・丹 佑之（国際海洋開発・東海大海洋）・田中昭彦（東海大海洋）
- 15:30-15:45 駿河湾湾奥における光学観測
○田中昭彦（東海大海洋），丹 佑之（国際海洋開発・東海大），杉山 領（東海大海洋），
比嘉紘士（横国大院），大石友彦（東海大海洋），虎谷允浩（東海大工）
- 15:45-16:00 駿河湾および清水港は酸性化しているか？ ～同海域での時系列観測の開始に向けて～
○成田尚史・門田高太・丹下佑美子・小松大輔（東海大海洋）
- 16:00-16:15 駿河湾奥部海域における低次生産：20年の経時変化 ○萩原 直樹（東海大海洋）

環駿河湾の地域社会(漁村とサクラエビ経済) 座長 植原 量行（東海大海洋）

- 16:15-16:30 用宗地区における集落内組織の構造と課題 ○関 いずみ（東海大海洋）
- 16:30-16:45 サクラエビの資源利用と流通 ○岡田 夕佳（東海大海洋）
- 16:45-17:00 桜海老の認証マークデザインと透明標本を使ったブランディング
○鉄 多加志（東海大海洋）

総合討論 17:00-17:30 座長 植原 量行（東海大海洋）

開催趣旨：駿河湾の自然環境を理解するには、駿河湾海底から富士山に至る6500mの鉛直スケールを持つ大気・海洋・陸域相互作用に基づく生態系の機能と構造を明らかにしなければならない。このような大きな鉛直スケールに含まれる現象は、鉛直方向の観測の困難さに加え、大気、海洋、陸域のいずれも駿河湾周辺にとどまらない大きな水平スケールの現象を考慮しなければならない。したがって、駿河湾における大気・海洋・陸域相互作用の理解はこれまでも、そしてこれからもたやすいことではない。一方、近年、高齢化社会となった地域社会、とりわけ沿岸漁業を核とするような沿岸地域社会の構造に関する研究が注目されている。これらの研究は、沿岸域の漁業・経済活動を含む地域社会の構造と機能の中に今後の日本社会を考えるうえで極めて重要な要素を見つけ出そうというものである。駿河湾沿岸域にはこのような地域が複数存在することから、本研究集会では、自然科学的な立場と社会学的な立場から共通テーマとして駿河湾をとりあげ、それぞれの学問領域で得られている成果や思考方法等の相互認識を深め、これらの分野をいかに統合できるかを議論し、新たな駿河湾像の創出を目指す。